

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(楓ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、医療連携について ●協力医療機関(遠藤内科医院)での対応としては、①24h365日対応の安心感。②大きな検査や入院設備はないが、ある程度の充実した医療行為(点滴、バルン管理、喀痰吸引、酸素吸入など)可能。③連絡ツールとしてキントアプリを活用し医師へ直接状態を報告(日常の細かな報告が可能)できる。また、病院診療時間外も医師と連絡が取りやすいメリット。④日、祝以外毎日医師が訪問してくれるので、体調が悪い利用者の状態を相談しやすい環境。薬剤調整も2週間毎なので個々の細かな部分も対応が可能。⑤R1/5/1より看取りケアも開始となっており、状態が悪化した方も最期まで施設で看とる事が可能。⑥利用者、ご家族、職員も安心した環境で対応が可能。 ●協力医療機関(いわしま歯科医院)での対応としては、往診にて虫歯や歯周病、その他、歯や歯茎の疾患の治療、歯石の除去、義歯調整など対応が可能。</p> <p>2、食事面について ●有資格者の調理専属職員を配置している事で、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。</p> <p>3、外出支援について ●当地域周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。</p> <p>4、誕生日会について ●利用者様個々のニーズに合わせ、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、時間を気にせず戸外へ個別対応している。 ※現在新型コロナウイルス感染拡大防止により面会や外出は制限しており、入居者様にとっては大変窮屈な生活となっている事が懸念材料。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム温もりの家」はJR森駅よりおよそ3キロ、車で約5分のところに位置しており、自然に囲まれた静かな環境で四季の変化が感じられる事業所である。函館の社会福祉法人が運営しており、建物は2ユニットの平屋建てで隣に同法人のグループホームが立地している。屋内は事務所を挟んで左右のユニットに分かれ、居間や食堂は日当たりがよく明るい。廊下も広くウォーキングに適しており、それを利用して主治医の指導のもと職員の見守りの中、ウォーキングを続け体重減少に成功した利用者もいる。医療については町内の医療機関が24時間365日対応で協力しており、不安なく過ごすことが出来る。終末期医療についても協力的で看取り介護を行っている。毎月の行事も趣向を凝らし、積極的に戸外へ出かける機会を設けている。今年度は感染症対策のため外出は少ない傾向にあったが、その分食事のメニューを工夫し屋外で食したり「おやつレク」として毎月色々なおやつをレク委員が考案し、一緒に作り楽しんでいる。職員は理念を常に意識し利用者寄り添った支援を行っている。ホーム長は昨年住居を町内に移し町民との触れ合いも多く、顔馴染みの関係が増え事業所を身近に感じさせている。また、ホーム長の心に余裕を持って頑張りすぎないケアという方針のもと、職員も笑顔が溢れている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフ毎に、理念をしっかりと理解し、日常の介護やケアでも優しい気持ちで笑顔を決やらず実践できている。	事業所の理念は毎日の朝礼で確認し、ユニットごとに1年間の目標を設定し半年ごとに確認を行っている。理念に添った笑顔いっぱいの職場であり、職員は常に意識して実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ影響下で実施できていないが、例年は盆踊り大会に呼んで頂いたり、餅つきに参加させて頂いたりしている。	感染症対策のため交流が難しい中、町内会の役員会に毎月参加し、町内会からは運営推進会議に参加がある。町内会行事である春と秋のクリーン・グリーン作戦やパークゴルフ大会に参加するなど双方向での交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎回、管理者が町内会の定例総会に出席しており、施設や認知症の人に対する理解や支援方法を啓蒙している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月おきに開催している。活動状況・入居者様の状態について報告と話し合いを行い、意見・アドバイスを頂きサービス向上に努めている。平日開催のためご家族様の参加はまれであるが、議事録を郵送し対応している。入居者様数名が参加される事もあり。	町内会や行政、社会福祉協議会、包括支援センター、認知症友の会など多数の参加があり、活動報告やヒヤリハット報告、最近の話題などを報告し、そこで表出された意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。2か月に1度の開催を予定していたが今年度は感染症対策のため4月と6月を中止としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や他の会議等で情報交換やサービスの取り組みについての報告を行っている。	運営推進会議に出席を得ている。役場には毎週訪問し情報交換を行っている。顔なじみとなった役場職員もいて積極的に協力関係を築いてサービス向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、定期的に学習、復習を行う事で拘束に対する啓蒙啓発を職員全員が行っており、日々のケアに努めている。	身体拘束防止委員会を月1回開催し、車椅子に固定しない・意思表示の難しい利用者は顔の表情を読み取るようにするなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束に関する勉強会や外部研修にも参加し全職員に伝達講習を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について定期的に学習し、日々のケアに際して意識的はもちろん、意図せず虐待していないか、職員一人一人が常に考え、行動している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の意味合いは個々に大まかに把握しているが、学ぶ機会や話し合う機会が中々持てないのが現状。今後は関係者を交えた勉強会等、開催出来れば・・・と思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長対応にて、入居前に口頭・書面で十分な説明を行い、理解・納得されたうえで契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会・来所時に直接お話を伺う事で、意見・要望を反映させている。	面会や来所時に意見や要望を聞いている。今年度は12月まで面会を行い1月以降は面会を中止しているため、毎月の担当者の手紙やケアプランの更新時に連絡を取り、意見や要望を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・全体会議で職員の意見を提案する機会を設け、反映出来るよう努めている。また、普段から気軽に意見を提案したりできるような人間関係が築けている。	「気づきノート」を作成し、気付いた事を職員が記入し、毎月のユニット会議で取り上げ内容により全体会議で話し合い運営に反映させている。職員間のコミュニケーションもよく、意見や要望をいつでも表出できる関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を取り入れ、業務改善・労働時間の調整等行っている。今年度はコロナ感染拡大防止のため制限があったが、職員ひとりひとりがやりがいと向上心を持って働けるよう、施設内外の研修会・勉強会に参加出来る体制が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習係を中心に毎月勉強会を行っている。どんな事を学びたいか、業務を行う上で知識や技術を向上させたい事は何か等、アンケートを配布し職員の要望を反映させている。今年度はコロナ感染拡大防止のため施設外研修もあまり開催されず残念であるが、参加できる機会があれば業務日程を調整し数少ないながらも意欲的に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止のため、昨年に比べ交流や勉強会の機会は少ないながらも、可能な範囲での意見交換・情報共有を行い、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ホーム長によりご本人様やご家族様が納得されるまで意向を聞き取りし、入所後はユニット全職員で入居者様の意見を聞き取ると共に日々の様子の中からも感じ取ったりと、不安なく安心して生活できるよう、職員との信頼関係を築く事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、ホーム長から御家族様の意向を聞き取り、ユニット全職員がそれらを把握している。御家族様来所時には入居者様の日々の様子や身体状況などの報告・説明をさせて頂くため会話の時間を作り、ご家族様の意見や要望を聞き取って、サービス提供出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活における関係機関やご家族様・ご本人様より情報や要望・困っている事等を伺い、職員間においてもそれらの情報の共有・対応の統一を図り、必要な支援を見極め、不安や心配なく安心・安全に生活できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の認知機能・身体機能に見合った、簡単なお手伝いをお願いしたり、常に入居者様1人1人が、何を求めて、どうされたいのかを把握する為に、日々の会話を常に心掛けて接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の変化等々は大小関わらず、ご家族様への電話報告、担当職員からの月に一度のお手紙等々で報告をさせて頂き、同時に支援や物資の補給をお願いしている。大局的ではありますが、ご家族様にも理解して頂き職員と一緒に入居者様を支える関係性を築けていると思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナ影響で面会も難しくなりましたが、玄関先の工夫等もして、施設側も面会者側も安心して、対面出来る様に取り組みました。入居者にとってご家族様の存在は大きい物なので、今後も現状に見合った対応に力を入れて行く方向です。	感染症対策のため面会は玄関先での対応としているが、家族や友人が来所し面会している。利用者の希望で美容院でカラーリングするなど、家族の協力のもと馴染みの関係が途切れないように継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知機能の差異が生じないレクの創出等に力を入れており、リワード用い、入所者様がそれらに興味を持ち、積極的な参加を促す様に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、遠方よりわざわざ来られ、施設で必要な消耗品等を寄付して下さったり、用事等で来所されるご家族様もあり、その際には入所時の思い出話や近況を伺ったりと会話の場を作るように努めている。サービス終了後であっても、ご家族様の心配事・相談事に耳を傾け支援サポート出来るように心掛けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様の興味ある事や、趣味などをスタッフ間で把握し、なるべく入所者様が望む生活を提供する事に努めている。認知症が重度で意思疎通が難しい場合は、本人が望むことを出来る限り尊重し、安心出来る暮らしを提供している。	体重増加気味の利用者は本人の希望で職員が見守りながら事業所内を散歩し体重減少に成功している。誕生日に寿司が食べたいと言う利用者には寿司を用意できる限り希望に応じ、意思疎通が困難な場合は普段の関わりの中から本人本位に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、事前情報とそれまでのケアマネジメントをスタッフ間で話し合いの場を設け、入所者様の生活リズムを把握するまでの間は、口頭や書面で情報の共有に力を入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から状態観察をこまめに行い、スタッフ間で共用し把握している。又、心身状態で迅速に対応しなければならない事は、担当医師に相談、回答を頂き日々のケアに努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度のモニタリングの作成と、それに併せて作成するケアプランでは、入所者様、担当職員や家族様の要望もしっかりと記載し、日々のケアに際し状況に併せて、介護、支援を行っている。	介護計画は半年ごとに見直し、3か月ごとにモニタリングを行い担当職員の意見を参考にして食事内容を変更したり、夜間もトイレ誘導するなど利用者の状況に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間対応で、毎日の状況や行動履歴を個人毎に記録し、いつでもスタッフ間で共用する事により、支援の実践や介護計画や介護計画の見直しに反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態や状況に応じて、可能な限りサービスの向上に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大防止のため、例年のように町内会や地域振興のイベントには参加出来ていない。環境が次第に整い、開催されるようになった時は、一人でも多くの入居者様が参加できるよう支援したい。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠藤内科医院と専属契約を結んでおり、担当医師には、ほぼ毎日来所して頂いている。又、24時間対応で医師とは連絡を取れるようにしており、急変時にも連携と対応している。	協力医療機関より毎日の訪問診療があり、24時間対応となっているため緊急時にも適切な医療を受けることが出来る。かかりつけ医の受診は家族で対応し職員が付き添うこともある。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	遠藤内科医院と専属契約を結んでおり、看護師には、ほぼ毎日来所して頂いている。又、月に一度の採血・心電図検査、入所者様の体調不良時の点滴施行等々、急変時にも連携を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長を中心に、病院の医師・看護師・スタッフとの信頼関係を築き、入居者様の現在の状態等を互いに把握している。入居者様に何かあっても、すぐに対応して頂けるよう日頃から小さな事でも話し合いが出来る関係作りを継続していけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関の遠藤内科医院の協力により、看取り介護を実施している。入所時や状態変化時に、ご家族様との面会を実施しホーム長から施設で行える対応の説明と医師からの現在の状態・今後の方向性についてご家族様へ説明を行っている。看取り開始となった際には医師への報告・連絡・相談を密にし、ユニット全職員で支援に努めている。	利用開始時に家族に看取りについて説明し意思確認書を交わしている。状態変化時に家族・主治医・ホーム長を交え説明し看取りに向けての同意書を交わしている。看取りの経験もあり、終末期に向けてはユニット全職員で取り組み、担当者の心のケアも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、急変時の対応に備えている。実際に対応する時に困惑する事を考慮し、マニュアルの作成・緊急連絡先や対応の仕方を事務所に掲示していざという時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署とも連携し、定期的に避難訓練を実施している。また、災害時の対応マニュアルの作成・非常食のストック管理等、緊急時にスムーズに対応できるような体制を整えている。	年2回の火災訓練を春は設備会社、秋には消防署も参加し実施している。災害時対応マニュアルを作成し緊急連絡先には町内会の防災担当者も入っている。地域住民の訓練参加希望もあつたが感染症対策のため今年度は見送っている。備蓄品も用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入所者様の性格・好み・癖や特徴等々を、スタッフ間で見つけ出し、又、そのことについて、スタッフ間で話し合い、理解した上で入所者様の支援の内容等を工夫しながら提供している。	利用者の名前は苗字で声かけをし、状況に応じて下の名前で声かけをすることもある。尊厳やプライバシーを損ねないように利用者の性格や個性を把握し対応に工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを単純化しYES/NOで答えられるようにし自己決定の容易化を行っている。また複雑な場合YES/NO形式を複数に分けて声掛けを行いより正確な希望を伺い知れる様な工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を心掛けているが利用者様本人からの希望が無くスタッフの提案に「それでいい」と答えられ本人の希望に沿っているとは言い難い状態である。それに伴って参加率も低下している為、現状は参加率上昇を目的としてレク種目の容易化を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の居室整理時に、その季節に合った衣服を用意しその日に着る服を自ら選択して頂き、入居者様の意志を尊重する様に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自力摂取を促すために食器を軽量化したり、箸・スプーン・フォークを変更し個々の残存能力の向上に努めている。	寿司バイキングの時に全介助の利用者が寿司をつまむこともあるなど、メニューに趣向を凝らし調理専門職員が手作りしている。毎月「おやつレク」があり利用者と一緒に行き、食事が楽しめるよう支援している。材料の準備や後片付けも手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量を記録しスタッフ間で共有、又、毎食時の摂取状況を観察し、都度各利用者様の状態を把握し、適宜対応、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けし口腔内の洗浄を促し、見守りやお手伝い等にてその人に合わせた支援、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録・活用する事によってその人その人の排泄間隔を把握し、適時のトイレ誘導や声掛けにて排泄を習慣化、又、誘導の際には利用者の状態に合わせた見守りや支援を行っている。	昼間は布パンツを使用し自発的にトイレで排泄を行っている利用者が多く、担当者制を活かし見守りの中から布パンツに変更になった利用者もいて自立にむけ支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取等、バランスに留意した献立を提供、恒常的に排便が出来る様留意し、便秘がちの際には医師との相談の上、下剤を活用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ間でその日の入浴の順番を考慮して考えて決めている。体調面や気の合う人同士の入浴等の配慮もしながら行っている。又、入浴中は世間話や他愛ない会話等をし、入居者様とのコミュニケーションを図っており、会話の中から個々に合った支援に繋げている。	週2回を基本とし、入浴担当者を男女1名ずつとして同性介助となるように配慮している。拒む場合は時間を置いたり、声かけを工夫をして楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくりと休息して頂ける様に、不安や不満事には傾聴対応を大事にしている。日中は傾眠傾向の強い入居者様には居室にて休養して頂いたり、体調をお気遣いし、定期的に休養時間を設け、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員が入居者様全員の服薬を把握出来るように、服薬の変更時には連絡ノート等を活用している。又、入居者様の身体機能、身体能力等で少しの変化でも見落とさないようにし、医師に相談し、薬の調整に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時のデータを基に、本人様、御家族様とコミュニケーションを図る事も含めて、趣味や特技などの情報提供をして頂き、更にその情報後は、施設のレクリエーションに取り入れれたり、行事への参加等で支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス影響下の為外出は不可能だがご家族様への電話連絡や玄関でのビニールカーテン越しの面会等。感染防止に最大限配慮した上で入所者様の希望実現の支援を実施している。	感染症対策のため個人対応は難しい状況だったが、事業所の隣に桜を見に行ったり、夏祭りでのバーベキューや屋外での流しソーメン、しゃぼん玉をしながらの日光浴など外出の機会を多く設け支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は御本人に管理して頂いているが、高額の場合は事務所で管理している。コロナウイルス影響下にて店舗へ買い物には行けてはいないが、施設前に自販機設置しており、御本人の希望に応じて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員では無いが、定期的に家族へと電話し会話して頂く等、御家族様とも相談の上実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク係を中心に、毎月共同空間の装飾を変え四季を感じて頂けるように工夫している。室温も夏場は窓を開けたりエアコンでの調整、冬場は暖房機器使用にて調整行い、入居者様に快適な生活を提供出来るよう配慮している。	温度や湿度に配慮し、今年度は換気にも注意し、飲食時はアルコール消毒をして感染症対策を徹底している。お正月は事業所内に鳥居を造り参拝ができるよう配慮するなど四季が感じられるよう様々な工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の様子から、気の合いそうな入居者様同士の席を近くしたり、男女別にテーブルを分けたりしている。自ら話をする方が少ない事と自室で一人で過ごすのが好きな方が多いので、レクや共同作業の時間は身体機能面が近い方を同テーブルにし、同じ作業を楽しく無理なく出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には施設に設置しているダンスや床頭台を使用しているが、使い慣れた家具や電化製品を持ち込み少しでも快適に過ごせるよう配慮している。馴染みのない施設の家具や配置等で混乱する方はいないが、何か問題があればすぐに対応できるよう、職員間で意識し状態観察行っている。	居室は使い慣れた家具やテレビが持ち込まれ、また仏壇や位牌が置かれている。壁にはカレンダーや写真が貼られ、自作の折り紙が飾られ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に応じて、出来る限り自立した生活を日々送って頂けるよう支援しているが、事故のリスクが高くなる場合は、御家族様と密に相談、話し合いを行った上で行うよう工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(銀杏ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0191513670-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、医療連携について          ●協力医療機関(遠藤内科医院)での対応としては、①24h365日対応の安心感。②大きな検査や入院設備はないが、ある程度の充実した医療行為(点滴、バルン管理、喀痰吸引、酸素吸入など)可能。③連絡ツールとしてキントンアプリを活用し医師へ直接状態を報告(日常の細かな報告が可能)できる。また、病院診療時間外も医師と連絡が取りやすいメリット。④日、祝以外毎日医師が訪問してくれるので、体調が悪い利用者の状態を相談しやすい環境。薬剤調整も2週間毎なので個々の細かな部分も対応が可能。⑤R1/5/1より看取りケアも開始となっており、状態が悪化した方も最期まで施設で看とる事が可能。⑥利用者、ご家族、職員も安心した環境で対応が可能。          ●協力医療機関(いわしま歯科医院)での対応としては、往診にて虫歯や歯周病、その他、歯や歯茎の疾患の治療、歯石の除去、義歯調整など対応が可能。</p> <p>2、食事面について          ●有資格者の調理専属職員を配置している事で、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。          3、外出支援について          ●当施設周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。          4、誕生日会について          ●利用者様個々のニーズに合わせ、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、時間を気にせず戸外へ個別対応している。          ※現在新型コロナウイルス感染拡大防止により面会や外出は制限しており、入居者様にとっては大変窮屈な生活となっている事が懸念材料。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(银杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは入居者様ご家族様への感謝の気持ちを忘れず、共に寄り添い支え合い優しい気持ちと笑顔を絶やさず、地域に根差した温もり溢れる施設を創ります。」の理念を職員全員が理解し共有して実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルスの影響もあり、交流が出来ない状態にあるが、地域の方と交流しお祭りやボランティアなどの地域の一員として交流の場に積極的に参加するよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により地域の方との関りも持つ事が少なくなっているが、管理者が町内会の会議に毎月参加し活動報告、意見交換を行い、施設や認知症の人に対しての理解や支援方法を話したりと繋がりを持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月毎に開催し、入居者利用状況、職員情報、人事報告、苦情報告、インシデント・アクシデント報告、活動報告をスライドにて報告、今後の活動内容、研修報告を行い質疑応答、ご感想、意見などを話し合いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が常に市町村担当者と連絡を密に取り、訪問してのコミュニケーション、意見交換や報告を積極的に行い良い関係を築いている。また地域会議やケア会議への参加も積極的に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束に関する勉強会を開催し身体拘束ゼロに向けた基本的な知識等を学ぶ機会を設け、理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は面会時間外のみとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、定期的に勉強会を開催し、基本を学び、自身のケアを振り返ることにより、虐待が見過ごされない様な防止に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度開催される外部研修へ参加予定。参加後、内部研修にて職員へ報告と勉強会を行いそれらを活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者対応にて、入居前に口頭・書面で十分な説明を行い、理解・納得された上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、請求書郵送時にアンケートを同封したり、面会や来所時に近況報告をした上で意見や要望を話せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、全体会議で職員の提案する機会を設け、反映できるよう努めている。また職員の意見や要望は早急に対応するよう努めている。日頃から話しやすい環境を意識している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の意見や要望を取り入れ業務改善、労働時間、希望休日の調整等を行っている。職員ひとりひとりがやりがいと向上心を持って働けるよう、職員個々の努力や実績などを把握した上で各係や担当を振り分け、責任を持って努めてもらうことで達成感、やりがいに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習係を中心に毎月勉強会を行い良いケアに繋がるよう努めている。毎年2回、職員一人一人のケアの実際と力量を評価し把握に努めている。コロナ事情により外部研修の参加は少なくなっているが、職員自ら参加したい要望は絶えずあり内部研修のみで対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修会、地域会議など積極的に参加し情報の交換を行い交流を持ち良い関係を築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(银杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にケアマネージャーが本人様、ご家族様から納得されるまで意向や要望などを聞き取りし職員へ伝え、職員はそのことを踏まえ日々の介護、介助の中から感じ取ったり不安のない生活を提供できるように職員で情報の共有をし努めている。また、担当職員が責任を持って関わる事で良い関係づくりが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にケアマネージャーがご家族様からの意見や要望などを聞き取りそのことを職員へ伝えケアを行っている。担当職員が日々の観察を行いご家族様へ近況報告を電話、面会時に報告しご家族様との信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より関係機関、ご家族様、本人様より情報や要望を伺い、その方がその時に必要なケアを見極め、職員間でそれらの情報を共有し統一した対応を行い、不安や心配なく安心安全に生活できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日生活する中で、お一人お一人と向きあいその方の立場になり、対応している。介護されるという一方と考えず、共にするという考えを前提の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係には特に気を配り、入居者様、職員と共に支えていくという関係を築けるよう情報やその方の状況を共有し支えて行ける関係づくりに努めている。担当職員よりご家族様へ近況報告のお手紙を郵送し情報を共有したり積極的に関わりを持つ事で良い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の状況によりですが、大切な場所、人を把握し、途切れない様、面会をして頂いたり、こちらから出向けるよう支援したりしている。外出することにより気分転換にもなっている。現在はコロナ事情により外出などは自粛していますが、ビニール越しでの面会で馴染みの方の関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な関係性があり、それを職員間にて共有しながら良い関係性が築けるよう支援している。また孤立しないよう配慮もし、支え合えるような関係が出来るよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご用事等で来所されるご家族様もあり、その際には入所時の想い出話などされたり、現在の様子などの会話の場を作りにしている。サービス終了後であっても、ご家族様の相談事など耳を傾け支援サポートできるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の趣味などを把握し、出来るだけ希望する生活を提供できるよう努めている。認知症の程度により意思疎通が難しい方へは担当職員が中心となり、ご本人様の意向を尊重した暮らしが提供できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、事前情報とそれまでのケアマネジメントを職員間で周知、情報を共有し把握している。また、面会時等で近況報告をしながらご家族様よりこれまでの生い立ちや生活環境を聞き取りし情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の状態観察を職員間で協議し結果内容をまとめ、現状把握できるよう努めている。出来ない事が増えないよう見守り重視の介護を行いゆったりと過ごして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のモニタリング作成とそれに合わせたケアプランの見直しを行っている。ご本人様に合った日々のケアを職員間で情報を共有し状況に合わせた支援を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や行動や様子を個人毎に記録し、職員間で情報を共有する事によって支援の実践や今後の計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて可能な限りのサービス展開や柔軟な支援やサービスを行っている。気付きノートを活用し小さなことでも気付いたことを書き留め、担当者へ報告し早期に対応したチームケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供するよう取り組んでいるが、本人の心身の力を発揮できていないところもあるため、今後の課題として、入居者様が楽しめる様、支援に取り組んでいきたいと思っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、遠藤内科が協力医療機関となっています。入所時に、ご家族様へ説明しており、症状や希望時には他病院の受診も対応している。定期的に医師の訪問診療をうけ、必要時には医師から他医療機関への受診指示もあり、適切な医療の提供支援が出来ていると思われまます。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は毎日医師が診察にきていただいている為、都度、特変ある場合には、受診日以外の入居者様の相談をしている。医師の協力もあり、迅速な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日の定期往診で医師が訪問される為、その時に小さなことでも相談や報告をすることで、医師、看護師、職員を情報を密に共有している。その為、入院を要する入居者様の対応を早急に行え対応出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には、都度、医師へ状態報告をし、早急な対応が出来るようにしています。終末期、看取り介護へも対応し、ご家族への説明をスタッフ・医師からしっかりと行い、今後の対応方法を相談し決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応を全職員熟知しています。急変時の対応方法を事務所電話横に提示しており、慌てず、対応できるよう工夫しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルの内容は把握できているが、時間と共に忘れるため、保管場所を定位置にし、すぐに確認できる体制をとっている。定期的に避難訓練を行い、実践を通して、避難方法を確認しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々により性格・生活習慣が違う為、声掛けの仕方を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないよう対応出来ていると思われまます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えには対応し、難しいことにも、スタッフ同士話し合いし、希望に添える様努めています。しかし自己表現できない方への対応は、スタッフの判断になる為、声掛けし雰囲気づくりだけでも提供できるよう今後の課題としたい。毎日の水分提供時にはメニュー表を活用し自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者様のペースで過ごしていただくよう取り組んでいるが、入居者様の状態や職員の人員状態により、仕事優先してしまうことがあるため、今後の課題としたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りは、本人の好きな服を着せてあげられるよう、入浴時の服など、自分で選んで頂いている。髪の毛の長さなども、本人・家族の希望を聞きながら、その方らしい身だしなみが出来るよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(银杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々により、食事量や、食事時の好きなものが違う為、普段の食事の様子や摂取量から、それぞれに合った食事量や形態にして対応している。ADLにより食器の変更等もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どの職員でも把握できるよう、食事量、水分量は都度、摂取表に記入している。食事量、水分量の増減時はすぐに気付き対応出来るよう努めている。低栄養、食事摂取が出来ない方には経腸栄養剤の摂取を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一部介助、全介助と個々に合った支援を行っている。本人からの訴え時や口腔内の状態から、歯科往診対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄時間の把握。尿量により、漏れなどがある場合には、パットの変更・排泄介助の時間の変更等、常にスタッフ話し合いし、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を使用し、排便の有無日数や形状・排便時間を把握し、早急な下剤の調整・必要時には医師への相談等、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定し決めている。それによって風呂の日を把握し、自ら準備するなどみられている。入居者様の性格や対人関係により時間などの調整を行い、トラブル防止に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠や本人の訴えなどみられるときには、都度、休養を提供しているが、昼夜逆転などの症状見られる場合には、日中の休養時間の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化を早期に発見できるよう、スタッフ同士、情報の共有を密にし、対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにADLにそって、個別レクや、手伝いなどを支援している。認知症状により、出来たことが出来なくなる時があるため、都度、対応出来ることなどを話し合いし提供できるよう努めている。また出来ない事が増えないよう日課として行って頂いている。個別レク表を活用している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスの影響により、外出を行う事は出来ていない。今後、コロナ改善以降は、感染対策をし外出の機会をつくっていきけるよう努めていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り、お金は施設預かりとしているが、ご本人様や、ご家族様の希望により、所持出来るよう支援している。施設預かりとなっているが、希望時には施設前の自販機に、スタッフと共にジュースを購入しに行くなどの支援を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望や、ご家族からの希望を把握し、都度、電話の受け継ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	都度、季節ごとの装飾するなど、季節感を感じれる場を作るよう努め、個々の症状により、落ち着くものを自席に置いたり、工夫しケアに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の性格や症状により、席の配置を工夫している。普段の様子を情報共有し、都度、席の変更等をし、トラブル防止や、会話の場を多くするよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやTV等、家具一式は施設の物を使用している。ご家族や入居者様の希望により、本人の居心地の良いよう、普段使用していた家具を使用するなど工夫を行い、認知症ケアに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様個人の能力を日々のケアや、以前の職業・生活からスタッフ話し合い、出来ることは行って頂く様、努めている。今後も、引き続き、専門職として自立した支援を提供できるよう努めていきたいと思う。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム温もりの家

作成日：令和 3年 2月 3日

市町村受理日：令和 3年 2月 3日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度、隣接するグループホームもりの家と協力して災害時対応マニュアルを作成できたが、新型コロナウイルス感染対策に伴い、火災訓練以外の災害訓練を行うまでには至らず、今後様々な自然災害が発生した場合の対策が不十分に感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森町消防署立会での規定年2回火災訓練と、自主的な訓練を継続する。</li> <li>●今年度は新型コロナウイルス感染対策に伴い、森町消防署立会での救命講習はできなかったため、この感染が落ち着いたら実施したい。</li> <li>●ここ数年予想だにしない自然災害が起きている中で、火災訓練だけではなく、様々な自然災害を予測し発生時には迅速に対応できるよう定期的に訓練を繰り返し行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止もあったが、規定の年2回火災訓練を春は三和防災、秋には森町消防署立会にて無事に実施できた。</li> <li>●昨年からの検討事案の災害時対応マニュアルを関連施設(もりの家)と協力し作成。町内会役員会議で報告した際に、町内会(防災部)の方も協力要請得られ、緊急連絡先に明記する事ができた。</li> <li>●地域住民の方で訓練参加希望もあったが、今年度は感染症対策のため参加を見送っていた。</li> <li>●昨年検討していた災害時の備蓄品や停電時の発電機はようやく用意する事ができた。</li> <li>※次年度は、この新型コロナウイルスの感染状況をみながら、町内会(防災部)、関連施設(もりの家)、又は近隣住民にも呼び掛けし、実際に作成した災害時対応マニュアルを確認しながら、一体的な訓練の実施に努める。</li> </ul>	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。